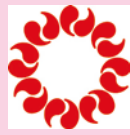


ホームページ版
(道徳教材5篇収録)



彩の国
埼玉県

彩の国のどろどろく(小学校低学年)

きょうもげんきに

埼玉県教育委員会

きょうもげんきに



のマークは、コラムのページです。



わたしたちのさいたまけん 1



さいたまけんが日本一！ 3



してはならないことがある！ 4

1 たかしくんの一日 5

2 たのしい学校 7

3 こまったなあ……どうしてこうなるの？ 9

4 マラソン 11

5 せいろくのゆき 13

6 七色のクジャク 15

7 だれのせい？ 17



「きりつあるたいど」「を」知っていますか？ 19

8 えがおであいさつ 21

9 埼玉一日 23

● は収録されている内容です。

●	●	●		●	●	●		●					
🐼	20	19	18	17	16	🐼	15	14	13	12	🐼	11	10
心にとる本のしょうかい	日本一の大だこ	学校のたからもの	わたしも手つたうよ	おそうじ大すぎ	かくれんぼ	心のほつとストーリー	見てみよう	さんぽ	大切なたからもの	二つのアサガオ	「さいたまのうつくしにいせんへようこそ」	学校のう園	がんばって
51	49	47	45	43	41	39	37	35	33	31	29	27	25

A cartoon illustration of a purple penguin with a large, raised wing, standing on a yellow surface. The penguin has a yellow beak and orange feet. It is looking towards the right with a slightly surprised or excited expression. The background is white with a yellow rectangular area at the bottom where the penguin is standing.

A cartoon illustration of a purple penguin with a large, raised wing, standing on a yellow surface. The penguin has a yellow beak and orange feet. It is looking towards the right with a slightly surprised or excited expression. The background is white with a yellow rectangular area at the bottom where the penguin is standing.

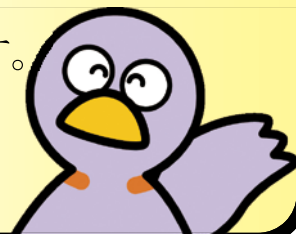
大そうじや ひっこしのときに 大かつやくの ダンボールばこ。さいたまけんは、ダンボールが、工場で作られる りょうが、日本一です。さいたまけんなら、せいりせいとんが すすみます。

(2、3は、へいせい17ねんどにしらべたけっかです。)

[illegible]

🐧 してはならないことがある！ 🐧

みんなが、^{たの}楽しく ^{せいか}つかつしたいと ^{ねが}っています。
みんなが ^{あか}明るく ^{げんき}元気に ^{すご}すために、
^{ひと}人として ^{しては} ならない ^{こと}が ^{あり}ます。
^{しては} ならない ^{こと}を ^しないこと。
そして…、『**きょうも げんきに！**』



ひとのものを
とっては
いけません。

うそを
ついては
いけません。

ひとを
いじめては
いけません。

ひとを
きずつけては
いけません。



わるいことを ^{しては} いけません！
いけないものは、いけないのです。



5 せいろくのゆうき

せいろくは、しぜんの中なかであそぶことが大だいすきな子こでした。いつも近きんじよの子どもたちとみんなであそんでいました。

今日きょうは、川かわであそぼうと思おもい、はしの近ちかくまできました。すると、大おおきな男おとこの子が三人さんにんでとおせんぼをしていました。せいろくは、そばの木きにかくれるようにしようすを見みていました。女の子がなっています。

（よわいものいじめなんかして。よし、たすけてやろう。）

と思いましたが、男の子はみんなせいろくより大きい子です。



（うーん。こっちは一人だもんな。一人じゃしょうがないや。）

せいろくは、知らないふりをしてそこをそと通とおりすぎました。

でも、いつもあそんでいる友ともだちが、
（せいちゃん、がんばれ。）

と言いっているような気がしてきました。

（そうだ。ぼくが言いわなくちゃ。）

「おい、よわいものいじめはよせよ。」

せいろくは、おもいきって言いいました。

「なんだ。おまえ

だっていつもいたずらをしているじゃないか。」

一いちばん大きな子がせいろくのかたをつかんで言いいました。ほかの男の子もこわい顔かおでにらみつけました。



「でも、よわいものいじめ
はしたことないぞ。よせ
よ。」

せいろくは、顔をまっ赤かに
してはつきりした声こえで言
いました。それにおどろい
たのか、男の子たちは、
「なんだい。なんだい。」
と、ぶつぶつ言いながら行いってしまいました。



せいろくは、きゆうにむねがどきどきしてきまし
た。そして、ふうつと大きないきをしました。
「ありがとう。ほんとうにありがとう。」
というと、女の子ははしっていきました。はしをわ
たりきるとにつこりしながら手てをふりました。
(ぼく、まけなかったぞ。)
せいろくは、心こころの中なかでさけびながら、家いえにむかっ
てはしり出だしました。



ました。みどりをふやす
ために、すすんで多くおほの
しごとをした、「本ほんだせい
ろく」は、さいたまけん
で生まれた人です。

心やさしく、ゆう
きのあるせいろく
は、のちに日本にほんのこ
うえんの父ちちとよばれ



人物じんぶつしょうかい

一八六六年、埼玉さいたま県けん久喜市くきしに生まれた本多静六ほんだせいろうくは、
日本でさいしよの林学りんがくはかせになり埼玉県の大宮おおみや
公園こうえんや東京都の日比谷公園ひびやこうえんのせつけいをしました。

行いってみよう、しらべてみよう！

「本多静六記念室」

(久喜市立菖蒲文化会館内)



久喜市菖蒲町菖蒲八五十一
〇四八〇(八七)一三七七



4 ていねいなことばづかいをみにつける

「～です(か)。」「～ます(か)。」をいうことができていますか。

はい

いいえ

「ありがとう(ございます)」「ごめんなさい」をすなおにいうことができていますか。

はい

いいえ

5 学^{がく}しゅうのきまりをまもる

じゅぎょうのまえに、つくえ^{うえ}の^{がく}上に学しゅうようぐをそろえることができていますか。

はい

いいえ

せんせい^{せんせい}先生のはなしやともだちのはっぴょうを、さいごまできくことができていますか。

はい

いいえ

6 せいかつのきまりをまもる

人のあつまるところでは^{くち}口をむすぶことができていますか。

はい

いいえ

ようぐ(ほうき、ぞうきんなど)を^{ただ}正しくつかってそうじができていますか。

はい

いいえ

きょう
今日のあなたは どうだったかな。
ぜんぶ できるように なったかな。
まい日^{にち} しっかり できるようになって
き
気もちのよい 一日^{いちにち}を すごしましょう。



「規律ある態度」を知っていますか？

さいたまけんの ^{しょうがくせい}小学生が みんなで とりくんで
みにつけようと している「きりつあるたいど」を
知っていますか。

下に かかれています 12のもくひょうは、わた
したちが かならず みにつけなければ ならない
^{たいせつ}大切な ないよう です。

1日の せいかつを ふりかえって、できるよう
になったか、下の ボタン **はい** **いいえ** を ゆびで
おして、たしかめて みましょう。



「学力」「規律ある態度」「体力」の基礎・基本

1 じこくをまもる

どう校 ^{こう}じこくを まもることが できていますか。

はい

いいえ

じゅぎょうの はじまる じこくを まもることが できていますか。

はい

いいえ

2 みのまわりのせいりせいとんをする

くつばこの くつの かかとを そろえることが できていますか。

はい

いいえ

つくえや ロッカーの中の ^{なか}せいり せいとんが できていますか。

はい

いいえ

3 すすんであいさつやへんじをする

げん気よく ^きあいさつを することが できていますか。

はい

いいえ

なまえを よばれたら「はい」と げん気よく ^きへんじが できていますか。

はい

いいえ

9

はなわ ほきいち
塙保己一

―やさしさを力にかえて―

むかし、さいたまけんの本じょうというところに塙保己一という人がいました。保己一は目が見えなかったのですが、だれにもまけないりっぱな学шыでした。

保己一の子どものころのことです。

「保己一。しっかりべん強をして目が見えなくてもりっぱな人になるんだよ。」

お父さんから言われた保己一はべん強するために家の人とわかれ、遠い江戸（いまの東京）でくらすことになりました。

（さあ、これからすきなべん強をがんばるぞ。）

でも、保己一のべん強はなかなかすすみませんで

した。そのころは、

目の見えない人のた

めの本や学校はあり

ませんでしたから、

保己一がべん強をす

るためには、人の話を聞いたり、人に本を読ん

もらったりしなければならなかったのです。それ

に、生かつをするためには、お金をもらうためのし

ごとをおぼえなくてはなりません。大すきなべん強

をする時間はほとんどありませんでした。

（もうだめだ。うちにかえりたい。）

そんなときでした。保己一のことを心ぱいしていた

先生が、

「保己一。べん強がしたいのだろう。すきなべん強

を思いきりやってみるがいい。」



と言ってくれました。保己一はとってもよろこびました。べん強でできるこ

ともうれしかったので

すが、やさしくしても

らったことが何よりも

うれしくて、ずっとそ

のことをわすれませんでした。そして保己一は、だ

れにでも親切にしようと思ったのでした。



そんなある日、保己一はしごとでおさむらいさん

のやしきによられました。そこで、おくがたのかた

やこしを心をこめてもんでいるときのことです。

「保己一、ありがとう。あなたにもんでもらうと

とっても体が楽になります。おれいにわたしが

本を読んであげましょう。」

そのほかにも、保己一のために本を読んだり、りっぱな先生をしようかいしたりしてくれる人がどんどんふえました。

こうして、保己一は、やさしい心を大切に、りっぱな学しやになることができたのです。

人物しょうかい

一七四六年、埼玉県本庄市に生まれた塙保己一は、目が見えないながら、これからの人がけんきゅうのために使えるように、ぜん国にちらばっていたきろくをあつめて、せいりしました。

行ってみよう、つづいてみよう！

「本庄市塙保己一記念館」



本庄市児玉町八幡山四四六
〇四九五(七二)六〇三二



SAITAMA

さいたま の すばらしい しぜん

わたしたちが すむ さいたまけん には、しぜんの うつくしさが ^み見られる場しょが ^ばたくさん あります。この うつくしい しぜん と うつくしい もの ^ををかんじる ^{こころ}心を いつまでも ^{たいせつ}大切に していきましょう。



ながとろまち あらかわ いわたたみ
長 瀬 町 の 荒 川 と 岩 畳



こうのすし あらかわすいかんきょう
鴻 巣 市 の コ ス モ ス と 荒 川 水 管 橋



さやまきゅうりょう もり
狭 山 丘 陵 の ト ト ロ の 森

さいたま が すきになる

さいたまのうつくしいしぜんへようこそ!!



ひだかし きんちやくだ まんじゅしゃげ ばし
日高市 巾着田の曼珠沙華とあいあい橋



ぎょうだし こだいはず さと はす
行田市 古代蓮の里の蓮



ちちぶし ひつじやまこうえん しばざくら
秩父市 羊山公園の芝桜



さってし ごんげんどう さくらなみき な はな
幸手市 権現堂の桜並木と菜の花

さいたま を しる

14 さんぽ

ある五月ごがつの土どよう日び。

ぼくは、おじいちゃんの家いえの近ちかくにある「トトロの森」におじいちゃんとさんぽに行いったんだ。「トトロの森」はいろいろな木きがあつて、たくさんいの生きものがすんでいるんだつて。

道みちばたに

は、スマイレヤ

タンポポのか

わいい花はな。空そら

を見みあげると



写真提供：トトロのふるさと財団

いろいろな形かたちのはっぱの赤あかちゃん。木こかげに入いると空くう気がひんやりして気きもちがいいんだ。日ひの光ひかりがはっぱの間あいだをくぐりぬけ、地じめんにおもしろいもようをつくっている。

「けんじ、目めをつぶってごらん。」

—ピッピキ ピッピキ—

小鳥ことりの鳴なき声こえ。

—サワサワ—

風かぜに木このはがゆれる音おと。

—ガサガサガサ—

（これは何なんの音おとだろう。どうぶつかな？）いろいろ

な音おとにまじって、

—ドキドキドキ—

ぼくの心しんぞうの音おとがだんだん大きく聞きこえてきた。

「きせつがかわると、またちがう音おとがするんだよ。

夏なつにはけんじのすきなカブトムシなんかもでてるしね。」

つかれたぼくたちは、木こかげで少し休やすんだあと、また歩あるきはじめた。こんどは、古ふるい家いえや田たんぼが見

えた。田んぼの近くの小川^{おがわ}に小さな魚^{さかな}がすいすい。見たことのない虫^{むし}もいる。

「あ、あれはなに？」

「やごだよ。とんぼの赤ちゃんさ。」

「いいなあ。おじいちゃんの家の近くはすてきな森があつて。」

「そうかい。むかしからこの森はみんなでまもってきたんだ。今^{いま}でも地^ちいきの人^{ひと}が力^{ちから}を合^あわせてまもっているんだよ。」

「へえ、そうなんだ。ぼくの家のまわりには、こんなところないよ。」

「そうかな。けんじの家の近くにもきつとすてきなしぜんがあるはずだよ。」

「……。」

ぼくは、今までそんなこと考^{かんが}えたこともなかったから、すぐにこたえることができなかった。

（あつ。そういえば、お父さんとザリガニつりに行^がつたつけ……。学校の近くにタンポポがさいていたぞ。）

「おじいちゃん。こんど

ぼくの家^きに来て。」

気^きもちのよい風^{かぜ}が、ぼ

くのせなかを通りぬける。ぼくは、かるくなった足^{あし}でおじいちゃんの前^{まえ}を元^{げん}気に歩^{ある}いた。



行^いってみよう、つづいてみよう！

「さいたま緑^{みどり}の森^{もり}博物館^{はくぶつかん}」

入間市^{いりま}宮寺^{みやでら}八八九一
〇四（二九三四）四三九六

「狭山^{さやま}丘陵^{きゅうりゅう}いきものふれあいの里^{さと}センター」

所沢市^{しおざき}荒幡^{あらかた}七八二
〇四（二九三九）九四一二



19 学校のたからもの

ぼくが、昼休みに、校長室の前を通ったときのことです。

校長室のドアがあいていたので、中をのぞいてみました。校長先生が白い手ぶくろをして、人形が入ったガラスのケースを白い布でやさしくしていねいにふいていました。

（校長先生は、何をしているのかなあ。なんで、人形があるのかなあ。なんだか古くて、よごれているなあ。）

ぼくが、教室へもどろうと思ったときです。校長先生が、にっこりわらって手まねきをしました。

校長先生は、人形を見つめたまま、こんな話を

してくれました。

「この子の名前は

マーサ・ヒース

ちゃん。アメリ

カから、日本の

わたしたちの

小学校へやつ

て来たんだ。今

から、八十年くらい前にね。」

「日本の子どもたちとアメリカの子どもたちが、な

かよしになるようにとアメリカの人形と日本の人

形をこうかんしたんだよ。日本では、このしゃし

んの渋沢栄一さんが、中心となつてね。」

「でもね…。」

校長先生の声が、このときだけ、かなしそうな声



にかわりました。

「^{いま}今から七^{ななじゅう}十年く

らい前、日本と外^{がい}

国のなかがわるく

なってしまったん

だ。そのとき、外国のお人形はすててしまえ、も

やしてしまえ、と言われたそうだよ。このマーサ

もね。けれど、子どもたちや先生たち、町^{まち}の人^{ひと}た

ちは、このお人形、マーサをまもってくれたん

だ。」

校長先生は、またにつこりわらって、ガラスの

ケースのとびらをそつとしめました。

「このお人形は、それから、ずうつとこの小学校に
いるんだよ。」



渋沢栄一 写真提供：渋沢史料館

ぼくは、校長先

生とあく手^{しゅ}をし

て、校長室を出ま

した。教室へもど

ると中^{ちゅう}、ぼくは、

「ぼくの学校のたからものだよ、マーサ・ヒース

ちゃん。」

と、心^{こころ}の中でよんでいました。



人物^{じんぶつ}しょうかい

一八四〇年、埼玉^{さいたま}県^{けん}深谷^{ふかや}市^しに生まれた渋沢^{しぶさわ}栄^{えい}一^{いち}
は、人々のくらしをゆたかにするために、日本に
五百もの会社^{かいしゃ}をつくりました。

行^いってみよう、しるべ^{しるべ}をみよう!

「渋沢^{しぶさわ}栄^{えい}一^{いち}記念館^{ねんかん}」



深谷市下手計一二〇四
〇四八(五八七)一一〇〇



20 日本一の大だこ

こうたがすむ春日部市西ほうしゅ花は、「大だこあげまつり」でゆう名です。

毎年五月にえど川の土手で、大きさをたたみ百しよう、おもしろ八百キロの大だこが空をまいます。

その大きさは日本一をほこり、まちは大ぜいの人たちでにぎわいます。



写真提供：大風会館

ぼくは、おじいちゃんにさそわれて大だこ会かん

の「たこ作り教室」へやってきました。たこ作りを教えるのは、大だこほぞん会の方です。

さいしよは、白い和紙に絵をかきます。

「こうたくん、クレヨンですきな絵をかくてごらん。」

おじいちゃんとお

くは、うでまくりを

して色をぬりはじめ

ました。

西ほうしゅ花に生

まれそだった、ほぞ

ん会のあら木さん

は、とてももの知りです。

「むかしは、みんながお金を出し合って大だこをあげたんです。まつりが近づくと、お金をあつめるのに走り回ったこともあったそうですよ。」



「まちにすみみなさんのくろうがあつて毎年（まいとし）つづけてこられたのですね。」

おじいちゃんがうなずいてかん心（しん）しました。話は（はなし）つづきました。

「さい近（きん）は、子どもたちがあげる小（こ）だこや女（おんな）の人があげる女（め）だこも作（つく）っているんですよ。そうすれば、まち中（じゅう）のみんなで楽（たの）しめるでしょう。」

あら木（き）さんは、うれしそうに言（い）いました。

「さあ、つぎは竹（たけ）をはりつけて、さいごに糸（いと）目（め）（たこの表（おもて）につけるあがりぐあいを調（ちよう）節（せつ）する糸）をつけますよ。」

ぼくたちはたこを作りながら、いつの間（ま）にか話（わ）にむ中（ちゆう）になっていました。

「わたしは、たこあげまつりと聞（き）くと、どこへでもたこあげに行（い）きます。でも、大（だい）だこはあげるだけでなく、作（つく）るところからおもしろいんですよ。」

たくさんの人（ひと）たちにそのおもしろさを知（し）ってほしいから、まだまだ大（だい）だこのべん強（きやう）をしますよ。」

あら木（き）さんは力（ちから）強く言（い）って、ゆび先（さき）でたこ糸（いと）をきゅつとむすびました。

でき上（あ）がった

たこをもつぼく

の心（こころ）はわくわく

していました。

大（だい）だこあげまつりに、こんどはぼくがおじいちゃんをさそって行（い）ってみよう。



行（い）ってみよう、つづいてみよう！

「大（お）風（かぜ）会（かい）館（かん）」

日本（にっぽん）一の「百（ひゃく）畳（じよう）敷（敷）春日（はる）日（ひ）部（ぶ）の大（だい）風（ふう）」



春日（はる）日（ひ）部（ぶ）市（し）西（せい）宝（ほう）珠（しゆ）花（か）六（ろく）三（さん）七（しち）番（ばん）地（ち）
〇四（よ）八（はち）（七（しち）四（し）八（はち））一（いち）五（ご）五（ご）五（ご）



こころ **心にのこる本のしょうかい** ほん

本は 1 さつごとに せかいが あります。その せかいの ^{なか} 中
 で、わたしたちは、よろこんだり、かなしんだり、あるときは、
 ゆめのようなぼうけんに わくわくし、また あるときは、ゆう
 気のある ^{いき} 生きかたに はげまされ、いろいろなことを ^{かんじ} かんじ
 ることができます。本を よむことで、自分の ^{じぶん} ところを、^{あか} 明
 るく、やさしく、かがやかせる ことができますでしょう。



書 名	著 作	出 版 社
かみさまからのおくりもの	ひぐちみちこ	こぐま社
ごめんねともだち	内田麟太郎・作 降矢なな・絵	偕成社
^{はな} ^{やま} 花さき山	斎藤隆介・作 滝平二郎・絵	岩崎書店
ふたりはいつも	アーノルド・ローベル 三木卓・訳	文化出版局
ももとこだぬき	松野正子・作 平山栄三・絵	大日本図書
おかあさんがおかあさんになった日	長野ヒデ子	童心社
かたあしだちょうのエルフ	おのき がく	ポプラ社
からすのパンやさん	かこ さとし	偕成社
このはのおかね、つかえます	茂市久美子・作 土田義晴・絵	佼成社出版
こんとあき	林 明子	福音館書店
ちいさなくれよん	篠塚かをり・作 安井淡・絵	金の星社
ひ・み・つ	たばたせいいち	童心社
^{ようねんぼん} 幼年版・ファールコンちゅう記 ^き	小林清之介・文 たかはしきよし・絵	あすなろ書房
めっきらもっきらどおんどん	長谷川摂子・作 ふりやなな・絵	福音館書店
やさいのおしゃべり	泉なほ・作 いもとようこ・絵	金の星社
ラチとらいおん	マレーク・ペロニカ とくながやすもと・訳	福音館書店
エルマーと16ぴきのりゅう	ルース・スタイルス・ガネット 渡辺茂男・訳	福音館書店
^{おに} ^{くび} ^ひ 鬼の首引き	岩城範枝・文 井上洋介・絵	福音館書店
かわいそうなぞう	つちやゆきお・文 たけべもといちろう・絵	金の星社
ふうたのほしまつり	あまんきみこ・作 山中冬児・絵	あかね書房
あらしのよるに	木村裕一・作 あべ弘士・絵	講談社
さっちゃんのまほうので	たばたせいいち [ほか]	偕成社
^{きょうしつ} 教室はまちがうところだ	蒔田晋治・作 長谷川知子・絵	子どもの未来社
だいじょうぶだいじょうぶ	いとうひろし	講談社
とべバッタ	田島征三	偕成社
ぞうのたまごのたまごやき	寺村輝夫・作 長新太・絵	福音館書店

心に残る「子どもの本」100選 ～子どもたち・友だちにすすめる100冊の本～

発行 埼玉県教育委員会

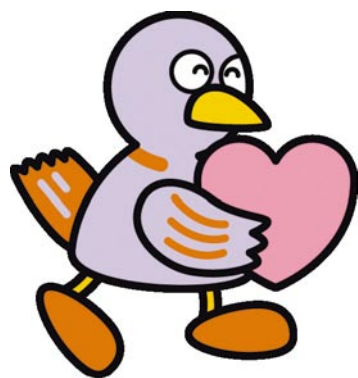
埼玉県道徳教材資料集（小学校低学年版「きょうもげんきに」）

○監 修 尾田 幸雄 お茶の水女子大学名誉教授
高島 元洋 お茶の水女子大学大学院教授
押谷 由夫 昭和女子大学大学院教授
蛭田 政弘 文教大学教授
鈴木 賢一 元埼玉県道徳教育研究会会長

○協 力 堺 正一 立正大学教授
宇宙航空研究開発機構 J A X A

○写真提供 春日部市商工観光課大鳳会館
行田市古代蓮の里古代蓮会館
鴻巣市市民協働部花かおり課
幸手市建設経済部産業振興課
トトロのふるさと財団
長瀬町観光協会
日高市市民生活部産業振興課
写真家 田島 隆宏
（表紙） 清水 勉

発 行 埼玉県教育委員会（平成22年2月）
編 集 埼玉県教育局県立学校部生徒指導課
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-6745
FAX 048-830-4952
E-mail : a6740@pref.saitama.lg.jp



埼玉県のマスコット コバトン